

## 北九州医療・介護連携プロジェクト会議 協議ルール

- 1 要望を言うための会議ではない。  
課題を解決するために全員で議論し、作業を行う。
- 2 ポジショントークはしない。所属・団体の立場を離れ、  
本人・家族にとって必要なことを議論する。
- 3 本会議で変えることができない制度や仕組み等については議論しない。
- 4 他者の意見を頭ごなしに否定しない。  
否定する際は、代替案・補足などを提言する。
- 5 従来やり方に固執しない。組み合わせ、改善、便乗 歓迎。
- 6 「仕組み」と「継続」づくりを意識する。
- 7 会議ごとに最低限合意できたことを確認する(ピン留め)。
- 8 会議で意見が衝突しても、会議後に引きずらない。  
会議の話は会議の中で完結させる。
- 9 会議で決まった後に、「実はこう思っていた」と言わない。
- 10 会議で行うと決めたことは必ず実行する。

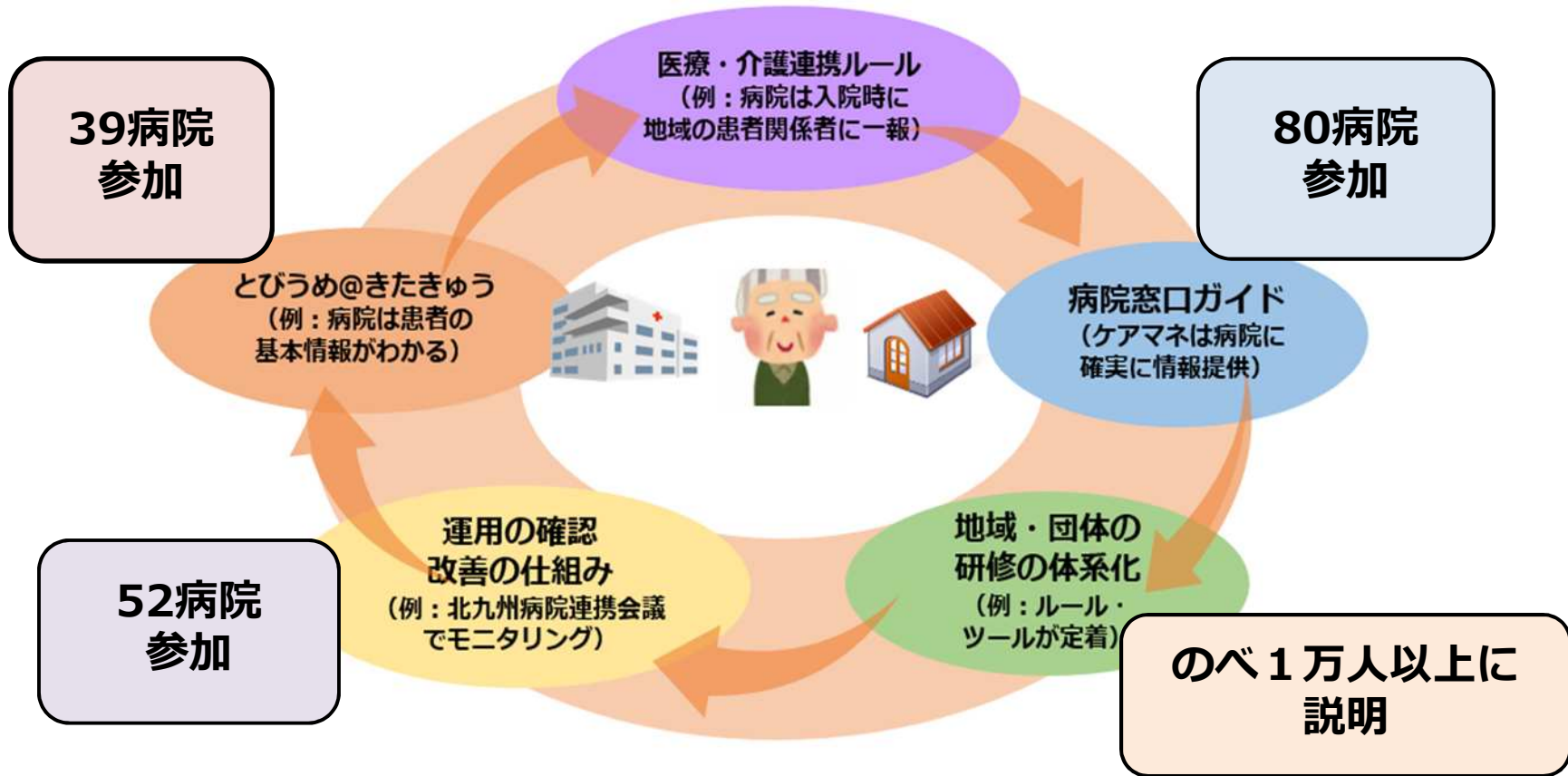


令和2年度  
第9回  
北九州医療・介護連携プロジェクト会議

日時 令和3年3月15日（月）19：00～20：30  
場所 北九州市役所 3階 大集会室



# 北九州医療・介護連携プロジェクト

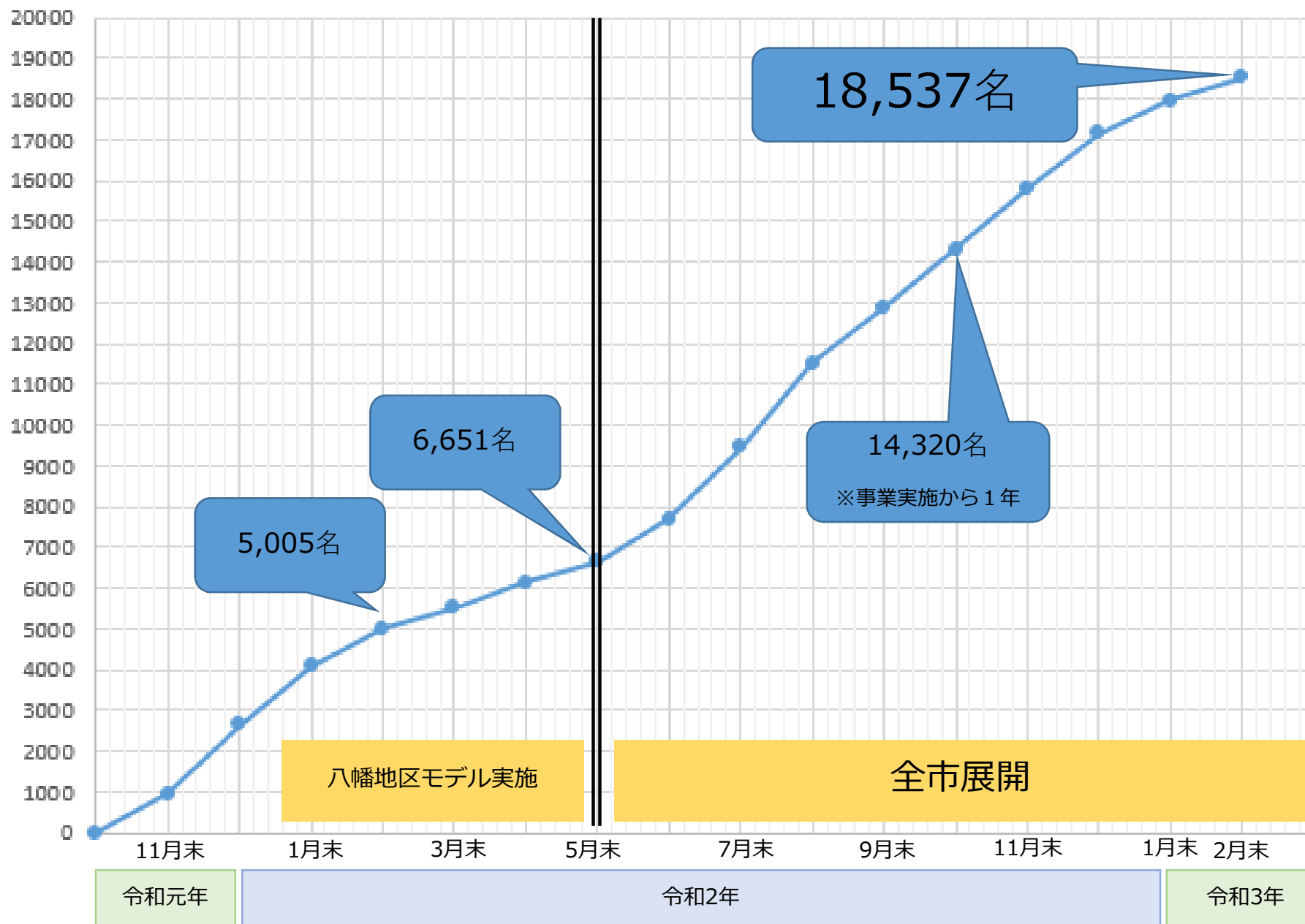


**みなさんの協力のおかげです！  
この姿を早く作ってしまいましょう！！**

## 議 題

1. とびうめ@きたきゅう新規登録者数  
【市HP追記】毎月公表
2. 医療・介護連携ルール活用状況等の調査結果について  
【市HP追記】公表
3. 「とびうめ@きたきゅう」の普及促進にかかる土台づくり
4. 登録申出書受け付け先の市HPでの公表  
【市HP作成】新たなページを作成（随時更新）
5. 区保護課における「とびうめ@きたきゅう」へのアクセスについて
6. 北九州医療・介護連携プロジェクトのリーフレットについて  
【市HP追加】公表

# 議題 1. とびうめ@きたきゅう新規登録者数（令和元年11月～令和3年2月）



## 種別ごとに集めた新規登録者数

事業所区分	同意取得件数 (R3.2.28時点)	前月比
診療所	4,524	+95
居宅介護（ケアマネ）事業所	4,288	+124
区役所	3,206	+88
その他(自治会等)	2,681	+132
病院	1,101	+43
在宅医療・介護連携支援センター	1,198	+29
特別養護老人ホーム	804	+66
訪問看護ステーション	253	0
薬局	257	+4
歯科診療所	122	0
介護老人保健施設	103	0
合 計	18,537	+581

# 登録者数（区別）

令和3年2月末時点

行政区	A：登録者数		B：65歳以上人口 (R2.3.31時点)
		(A/B) ※登録は65歳以上に限られるものではないが、 参考までに割り算をした	
門司区	1,686	4.7%	35,716
小倉北区	1,870	3.6%	52,397
小倉南区	2,857	4.8%	59,571
若松区	2,547	9.6%	26,455
八幡東区	2,310	9.7%	23,772
八幡西区	5,944	8.0%	74,767
戸畑区	949	5.2%	18,195
合計	18,163	6.2%	290,873

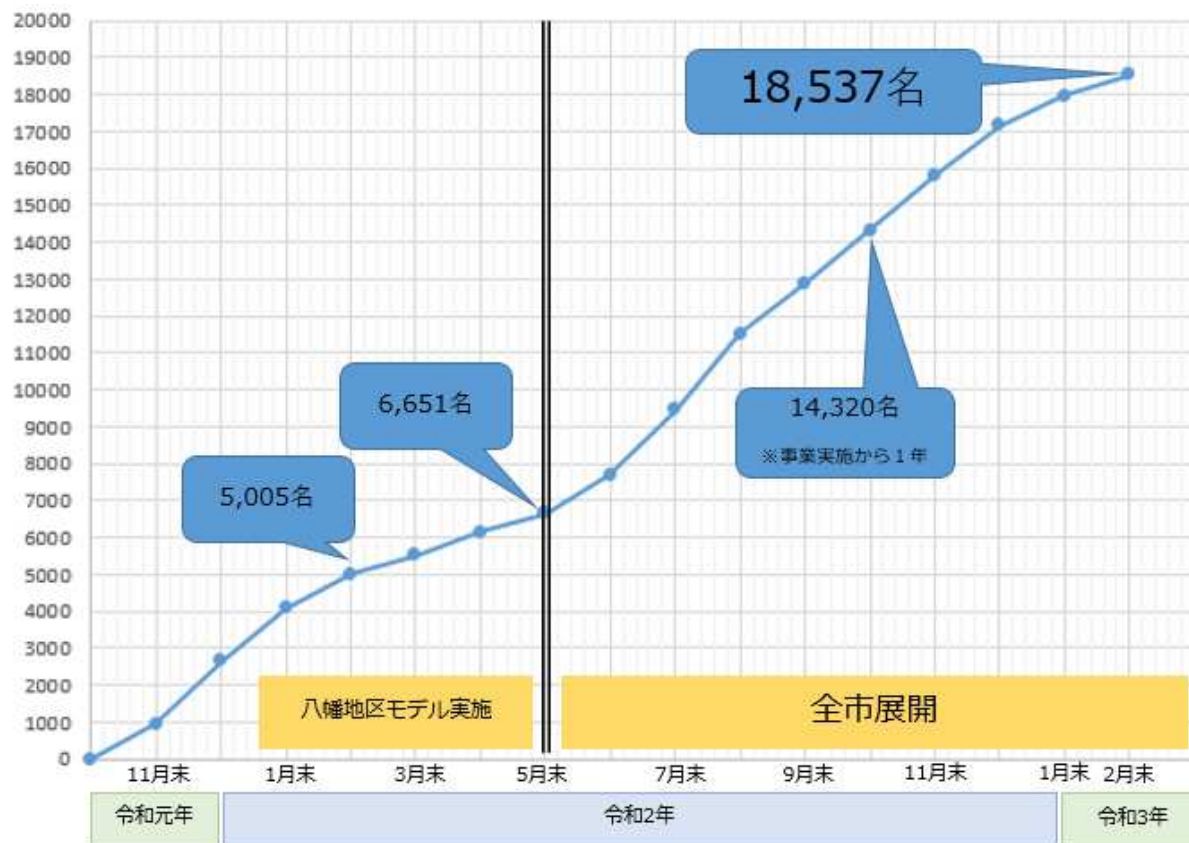
## 「とびうめ@きたきゅう」について

更新日：2021年2月3日

シェア 51 ツイート

とびうめ@きたきゅうは、北九州医療・介護連携プロジェクトの**主要事業**（とびうめ@きたきゅう、**病院窓口ガイド**、**医療・介護連携ルール**）の内、**中心となる事業**です。

新規登録者数(令和元年11月～)





種別ごとに集めた新規登録者数

(予定)

事業所区分	同意取得件数 (R3.2.28時点)	前月比
診療所	4,524	+95
居宅介護(ケアマネ)事業所	4,288	+124
区役所	3,206	+88
その他(自治会等)	2,681	+132
病院	1,101	+43
在宅医療・介護連携支援センター	1,198	+29
特別養護老人ホーム	804	+66
訪問看護ステーション	253	0
薬局	257	+4
歯科診療所	122	0
介護老人保健施設	103	0
合計	18,537	+581

令和3年2月末時点

行政区	新規登録者数		参考：65歳以上 (R2.3.31時点)
門司区	1,686	4.7%	35,716
小倉北区	1,870	3.6%	52,397
小倉南区	2,857	4.8%	59,571
若松区	2,547	9.6%	26,455
八幡東区	2,310	9.7%	23,772
八幡西区	5,944	8.0%	74,767
戸畑区	949	5.2%	18,195
合計	18,163	6.2%	290,873

概要

「とびうめ@きたきゅう」は、市民の方が受けた医療・介護・健診の情報の一部をネットワークを通じて、医療機関等で共有（福岡県医師会の運用する「とびうめネット」を活用）することにより、適切で迅速な医療の提供とスムーズな入退院支援を情報面から支える取組です。

【登録される方のメリット】

登録することで、あなたの医療・介護・健診の情報が、「とびうめ@きたきゅう」に参加する医療機関等で24時間いつでも確認でき、例えば、

(1) 緊急時にあなたの医療・介護・健診の情報が医療機関等にきちんと伝わることにより適切で迅速な治療につながる

(2) 病院、かかりつけ医、ケアマネジャー等が連携して、退院に向けての丁寧なサポートを受けられる

などのメリットがあります。

【「とびうめ@きたきゅう」に関する動画】

・[とびうめ@きたきゅう 市民説明用動画「T@K NEWS」](#)（外部リンク）

（YouTubeの動画ページにジャンプします）

市民説明用の動画です。登録希望者へのご説明や、事業内容を確認される際にご覧ください。

・[情報共有で適切・迅速！とびうめ@きたきゅう/あっぱれ！北九州（令和2年1月26日放送）](#)（外部リンク）

（YouTubeの動画ページにジャンプします）

「あっぱれ！北九州」にて、「とびうめ@きたきゅう」について放送されました。



## 議題 2. 医療・介護連携ルール活用状況等の調査結果について

1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）
2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（結果）

# 1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（対象：ケアマネ事業所）

## 1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」の令和元年11月からの八幡地区でのモデル実施、令和2年6月からの全市展開、そして医療・介護連携ルールの運用開始から、一定期間がたち、「とびうめ@きたきゅう」の新規登録者数も約1.5万人を超えたため、医療・介護連携ルールの状況を把握するための調査をケアマネ事業所を対象に実施した。

## 2. 調査概要

- **病院から居宅介護事業所へ、利用者が入院された際に連絡が来ているか**について（「北九州医療・介護連携ルール」が運用されているか）、調査票を市内の全ケアマネ事業所に送付し、回答状況を集計した。

## 3. 調査期間

- 令和2年11月30日（月）から令和2年12月25日（金）（約1か月間）

## 4. 回答率

- 44.6%（175/392事業所）  
※小規模多機能事業所を含む

## 5. 調査期間中の入院件数

- **459件**（救急入院・当日入院・その他入院）

## ○結果要点①

### 【病院→ケアマネ事業所】

①病院から <u>3日以内</u> に連絡があった	<b>233/459件 (50.8%)</b>	
②病院から <u>入院3日以降</u> に連絡があった	32/459件 (7.0%)	} <b>226/459件 (49.2%)</b>
③病院から連絡が <u>なかった</u>	194/459件 (42.2%)	

※「③病院から連絡がなかった」についても、病院から家族を経由してケアマネ事業所に連絡してもらっているなど、「ケアマネ事業所に全く連絡がない」ということではない。

※参考：入院種別のうち、救急入院、当日入院を抽出。

	救急入院			当日入院		
	3日以内	3日以上	連絡なし	3日以内	3日以上	連絡なし
全病院	46.7% (99/212件)	7.5% (16/212件)	45.8% (97/212件)	46.6% (61/131件)	7.6% (10/131件)	45.8% (60/131件)
内、救急病院	45.3% (82/181件)	3.3% (6/181件)	51.4% (93/181件)	45.3% (34/75件)	5.3% (4/75件)	49.3% (37/75件)
内、門司区、 小倉北区、小倉南区	42.7% (47/110件)	1.8% (2/110件)	55.5% (61/110件)	42.2% (19/45件)	2.2% (1/45件)	55.6% (25/45件)
内、八幡東区、八幡西区、 戸畑区、若松区	49.3% (35/71件)	5.6% (4/71件)	45.1% (32/71件)	50.0% (15/30件)	10.0% (3/30件)	40.0% (12/30件)

## ○結果要点②

【ケアマネ事業所→病院】（病院から入院の連絡があったもの（前ページ①+②）について集計）

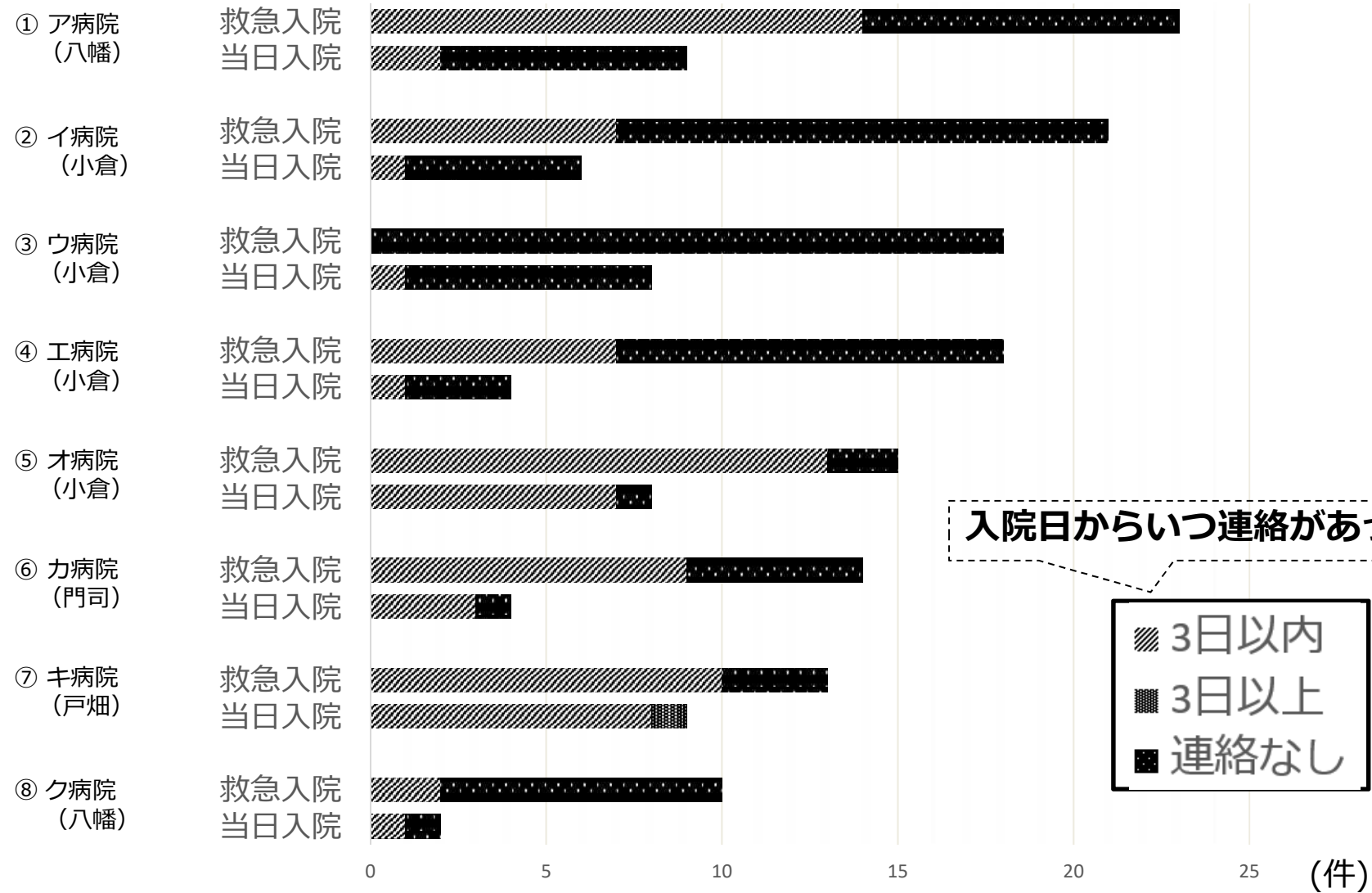
○ケアマネ事業所から <u>3日以内</u> に情報提供をした	212/265件（80.0%）	} <b>53/265件（20.0%）</b>
○ケアマネ事業所から <u>3日以降</u> に情報提供をした	8/265件（3.0%）	
○ケアマネ事業所から情報提供 <u>していない</u>	45/265件（17.0%）	

※参考:全入院に対してケアマネ事業所が病院に情報提供を行っているケースは下表のとおり。

		全体
		全入院種別
入院を知ってから3日以内	66.4%(305/459件)	
入院を知ってから3日以降	8.1%(37/459件)	
情報提供なし	25.5%(117/459件)	

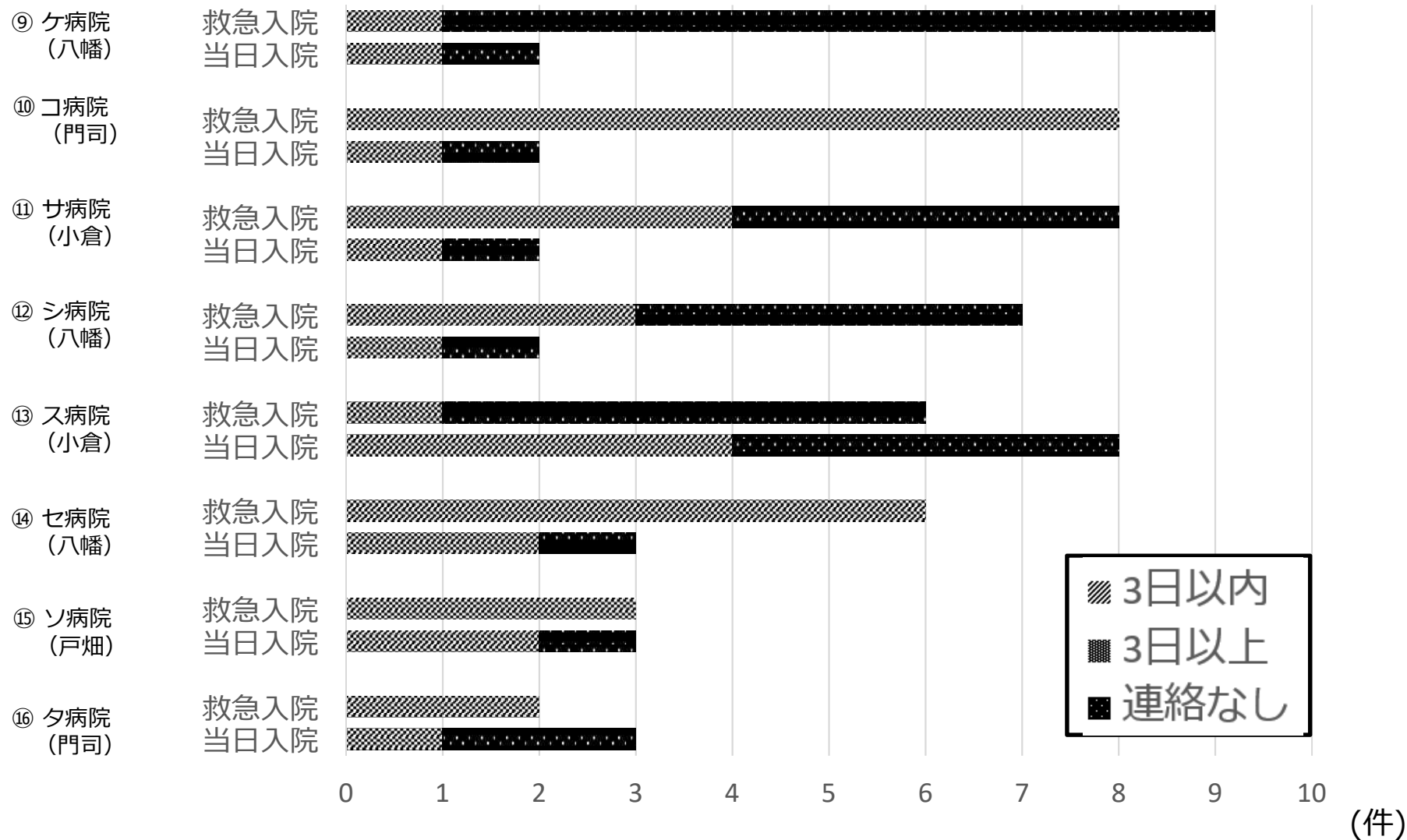
# 病院からケアマネ事業所への 「利用者が入院しました」の連絡

※R2.11.30~R2.12.25の救急入院、当日入院について、市内のケアマネ事業所に調査したもの



入院日からいつ連絡があったか





**病院によって、取組状況はマチマチである。**

注) 「連絡なし」についても、病院から家族を経由してケアマネ事業所に連絡をしてもらっているなど、「ケアマネ事業所に全く連絡がない」とまではいえない。



## ケアマネ事業所から見て「誰から利用者入院の連絡があったか」

連絡をくれた人			連絡があった件数
病院	家族	その他	
○	○	○	2.0% (9/459件)
○	○		24.4% (112/459件)
○		○	13.5% (62/459件)
○			17.9% (82/459件)
	○	○	<b>0.8%</b> (4/459件)
	○		<b>22.4%</b> (103/459件)
		○	<b>19.0%</b> (87/459件)
<b>57.7%</b> (265/459件) ※これには入院3日以内、3日以上がある	<b>49.7%</b> (228/459件)	<b>35.3%</b> (162/459件)	

今後、家族機能が弱まっていくことから、ここには頼れない。  
 病院↓ケアマネ事業所への連絡を徹底する体制を今のうちから  
 どんどん作っていく必要がある。

## ○まとめ

- 全体の5割について、入院から3日以内に病院からケアマネ事業所に連絡があった（その他は家族などを経由し連絡）。  
一方、病院から連絡のあったケースの8割について、ケアマネ事業所から病院に情報提供をしていた。
- 病院からケアマネ事業所への「利用者が入院しました」の連絡の取組状況は病院によりマチマチである。
- 今後、家族機能が弱まっていくことから、家族・その他の方からの連絡は頼れないようになる。病院からケアマネ事業所への連絡を徹底する体制を今のうちから作っていく必要がある。

# 参考：ケアマネ事業所を対象に実施した調査（病院からの連絡があった日ー入院日）

利用者が入院した  
ことの連絡の有無

57.7%  
(265/459件)

42.3%  
(194/459件)

（病院から連絡がなかった）  
（病院以外から連絡があった）

## 病院から連絡のあった日数（全入院種別）

全入院種別		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	57.7%(265/459件)	62.7%(79/126件)	55.9%(186/333件)
入院日以前	3.5%(16/459件)	8.7%(11/126件)	1.5%(5/333件)	
入院3日以内	47.3%(217/459件)	46.0%(58/126件)	47.7%(159/333件)	
入院3日以降	7.0%(32/459件)	7.9%(10/126件)	6.6%(22/333件)	
連絡なし	42.3%(194/459件)	37.3%(47/126件)	44.1%(147/333件)	

救急入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	54.2%(115/212件)	57.4%(31/54件)	53.2%(84/158件)
入院日以前	—	—	—	
入院3日以内	46.7%(99/212件)	48.1%(26/54件)	46.2%(73/158件)	
入院3日以降	7.5%(16/212件)	9.3%(5/54件)	2.4%(11/158件)	
連絡なし	45.8%(97/212件)	42.6%(23/54件)	46.8%(74/158件)	

外来受診後の 当日入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	61.8%(81/131件)	68.2%(30/44件)	58.6%(51/87件)
入院日以前	7.6%(10/131件)	18.2%(8/44件)	2.3%(2/87件)	
入院3日以内	46.6%(61/131件)	47.7%(21/44件)	46.0%(40/87件)	
入院3日以降	7.6%(10/131件)	2.3%(1/44件)	10.3%(9/87件)	
連絡なし	38.2%(50/131件)	31.8%(14/44件)	41.4%(36/87件)	

その他の入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	病院から連絡があった	59.1%(68/115件)	64.3%(18/28件)	57.5%(50/87件)
入院日以前	5.2%(6/115件)	10.7%(3/28件)	3.4%(3/87件)	
入院3日以内	48.7%(56/115件)	39.2%(11/28件)	51.7%(45/87件)	
入院3日以降	5.2%(6/115件)	14.3%(4/28件)	2.3%(2/87件)	
連絡なし	40.9%(47/115件)	35.7%(10/28件)	42.5%(37/87件)	

# 参考：ケアマネ事業所を対象に実施した調査（情報提供を行った日ー病院から連絡があった日）

利用者が入院した  
ことの連絡の有無

57.7%  
(265/459件)

42.3%  
(194/459件)

（病院から連絡がなかった  
（病院以外から連絡があった）

病院から患者入院の連絡を受けた後の病院への情報提供の有無と日数（全入院種別）

全入院種別		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	情報提供を行った	83.0%(220/265件)	78.5%(62/79件)	84.9%(158/186件)
病院連絡以前	12.5%(33/265件)	11.4%(9/79件)	12.9%(24/186件)	
連絡後3日以内	67.5%(179/265件)	59.5%(47/79件)	71.0%(132/186件)	
連絡後3日以降	3.0%(8/265件)	7.6%(6/79件)	1.1%(2/186件)	
情報提供なし	17.0%(45/265件)	21.5%(17/79件)	15.1%(28/186件)	

救急入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	情報提供を行った	85.2%(98/115件)	74.2%(23/31件)	89.3%(75/84件)
病院連絡以前	9.6%(11/115件)	9.7%(3/31件)	9.5%(8/84件)	
連絡後3日以内	73.9%(85/115件)	61.3%(19/31件)	78.6%(66/84件)	
連絡後3日以降	1.7%(2/115件)	3.2%(1/31件)	1.2%(1/84件)	
情報提供なし	14.8%(17/115件)	25.8%(8/31件)	10.7%(9/84件)	

外来受診後の 当日入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	情報提供を行った	77.8%(63/81件)	73.3%(22/30件)	80.4%(41/51件)
病院連絡以前	11.1%(9/81件)	6.7%(2/30件)	13.7%(7/51件)	
連絡後3日以内	61.7%(50/81件)	53.3%(16/30件)	66.7%(34/51件)	
連絡後3日以降	4.9%(4/81件)	13.3%(4/30件)	0.0%(0/51件)	
情報提供なし	22.2%(18/81件)	26.7%(8/30件)	19.6%(10/51件)	

その他の入院		全体	とびうめ登録者	とびうめ非登録者
	情報提供を行った	85.3%(58/68件)	94.4%(17/18件)	82.0%(41/50件)
病院連絡以前	19.1%(13/68件)	22.2%(4/18件)	18.0%(9/50件)	
連絡後3日以内	63.2%(43/68件)	66.7%(12/18件)	62.0%(31/50件)	
連絡後3日以降	2.9%(2/68件)	5.6%(1/18件)	2.0%(1/50件)	
情報提供なし	14.7%(10/68件)	5.6%(1/18件)	18.0%(9/50件)	

## 参考：病院窓口ガイドについて、使用しての感想や追加・変更を希望する点①

### <記載内容、記載方法について>

- ・ 病院名が見にくかった。ガイドに書いてある窓口でない所に情報を渡す場合もあった。
- ・ もともと病院とは連携を取っていたので、窓口の連携先などは知っていた。ただ、同じ書式を用いて、この時はどちらにとはっきりと明示されたおかげで、架電時に助かる。書式が小さく少しごちゃごちゃしている感があり、見えにくいのが難点。問い合わせによって問い合わせ先が書いてあるものの、実際とは違うことがままある。
- ・ 情報提供書提出先やケアマネへの要望が書かれてあるのでとても参考になる。
- ・ 連絡先がわかるので助かる。
- ・ わかりやすくして利用しやすい。
- ・ 一覧が出来てとても助かっている。
- ・ 入院時の連絡をする際に病院窓口ガイドを利用している。連絡先や担当が明記されているので助かっている。

### <病院との連携について>

- ・ 病院窓口ガイドを見て病院に連絡するが、対応してもらえない場合がある。入院・退院の連絡がもらえないことがある。
- ・ 救急部隊に「連携室に連絡してください」と言われ連絡したところ、連携室から「到着してからこちらが動くので、連絡をしなくてもいい」と言われた。上記のことを伝えたが、疑問ばかり残った。
- ・ 情報提供する際は電話連絡するように記載しているが、病院内の伝達不足なのか、「FAXします」と話しても待たされFAXできないので、病院内でも周知して欲しい。
- ・ 以前より病院との連携が図りやすくなったと思う。病院の方から入院の連絡をいただくことが増えてきたように思う。
- ・ お蔭様を持ちまして、総合病院との入退院の連携がスムーズになりつつあると感じている。とびうめ@きたきゅうの登録を引き続き働きかけていきたいと思っている。
- ・ 明らかに病院からの一報が増えたことを実感している。
- ・ 連携がとりやすくなった。
- ・ 病院との連携が図りやすくなった。どこにFAXをしたらいいかを確認しやすく、新型コロナウイルスの関係で病院に持参する事がなかなかできない状況だったので、情報提供がしやすくなった。また、退院前の連絡もして下さるようになってきている。

## 参考：病院窓口ガイドについて、使用しての感想や追加・変更を希望する点②

### <要望>

- ・ 窓口ガイドに掲載している番号が代表番号で、連携室の番号を聞いて、またかけないといけない。  
(2度手間になるので、直接つながる連携室の番号を掲載してほしい)
- ・ 相談員がいる病院(厚生病院など)の情報を追加して頂けたら助かる。大変見やすく活用させていただいている。
- ・ 詳しく記載されているが、表説が複雑すぎる?もう少し、簡略化・シンプル化できると見やすいかもしれません。

### <その他>

- ・ とびうめ@きたきゅうについて興味はありますが、まだ登録できていません。もうしわけございません。
- ・ まだ活用できていないので、活用してみたいと思う。
- ・ 必要時に活用する。

## 参考：その他自由記載①

### <病院との連携について>

- ・ 病院からの連絡は長期・短期～退院までの間に連絡はあるが、家族の意向がないと名前や病状も聞くことができない。新型コロナウイルスにより、病院に面会することもできないのが現状。医療との連携は理解しているが、どうやって病院とのつながりを持てばよいのかわからない。その方法があれば教えて欲しい。病院によってはカンファレンスをする所としない所がある。
- ・ とびうめに登録していても、連絡がないことや、病院によっては病棟から連絡があるなど、まだまだ活かせていない場面があった。家族からの連絡を受け、こちらから連絡して…の感じは今まで通り。病院によって差があると思った。
- ・ 退院調整時、病棟と連携室でバラバラに連絡してくる。基本どっちに連絡したらいいのかわからない病院もあり（病棟から連絡があり、折り返し連携室担当に連絡すると聞いていない等）。退院前の調整連絡がない（こちらから確認すると、明日退院です。など）
- ・ 次の日に連絡したら、担当がまだ決まっていないとのことで情報提供できないことがあった。
- ・ 今までに（現在も）すぐに入院先から電話をいただくよりも、家族からの連絡の方が早いです。
- ・ 病院との連携は図りやすくなったが、病院によっても対応の差があり、時に救急病院は病院から連絡が来ることはほとんどなく、こちらが情報提供しても折り返しや退院の連絡などないことがほとんどなので、家族と連絡をとりあい情報収集をしている。病棟の看護師さんに対応してくれることがあるが、ソーシャルワーカーと連絡を取るのと違い難しいと感じることがある。
- ・ 今回は、こちらから連絡したが、製鉄記念さんはよく連携してくださるのでありがたい。
- ・ 調査期間内に事例はありませんでしたが、製鉄記念八幡病院と済生会八幡病院は入院時必ず（ほとんど）連絡をくれる。
- ・ 同一法人で住宅型有料老人ホームを運営しているため、現場責任者に直接病院から連絡が入り、その後ケアマネが介入するケースがある。
- ・ ケアプランセンターと同じ系列の住宅型の施設に入っているため、病院とのやり取りは施設を窓口に行っている状況。
- ・ 家族や施設からの連絡で入院を知るケースがほとんど。患者情報として、基本情報のみか、計画書・介護保険証のコピーが必要か、統一できるとよい。

## 参考：その他自由記載②

### <「とびうめ@きたきゅう」について>

- ・ とびうめを説明しても、理解されなかった時があったので、今後、努力をしていくつもりではある。今後ともご指導のほどよろしく願います。
- ・ かかりつけ医からとびうめ@きたきゅうについて、「本人の情報を医療機関以外にどこまで拡充していくのかわからない。拡充すれば個人情報の漏洩リスクが高くなることに不安がある」と言われた。
- ・ 個人情報保護について、不安を感じている方が多いのが現状。引き続き働きかけを継続していく。
- ・ とびうめネットは登録がすすんでいません。
- ・ かかりつけ医に「とびうめ@きたきゅう」の登録をしましょうと話しましたが、なかなか回答が得られません。
- ・ 登録はしていませんが、情報提供は必ず行っている。死亡しても連絡がありません。転院後、共有もされていません。登録すれば、連絡が入るのでしょうか？
- ・ R2.8月申請：登録カードが届いていません。
- ・ 市外に救急搬送が多いため、市外にも広がると思う。
- ・ 登録されたほとんどの利用者さん達に「安心できる」と喜ばれていた。

### <「病院窓口ガイド」について>

- ・ 私共の事業所は直方市に隣接しており、福岡市ゆたか中央病院への入院もある。新水巻病院も多く入院があるので、北九州市近郊の病院の情報もあると便利。

### <「医療・介護連携ルール」について>

- ・ 添付された医療・介護のルールにおいて、情報提供が急性期・慢性期どちらに対しても情報提供となっているが、そもそもケアマネから初回入院先、例えば救急病院に情報が提供され、そこから慢性期等病院に連絡がいき、慢性期からケアマネなどに情報がいく、いわゆるつながる連携になっていないように見えるが、実際病院を転院した際に転院先からも情報提供（ケアプランや基本情報）を求められるが…病院間の連携はないのかが疑問。
- ・ 病院からの連絡で入院したことを知るよりも、家族からの連絡でケアマネから病院に連絡することが圧倒的に多い。とびうめからの医療・介護連携が始まってからは「知らないうちに退院していた」等はほとんどなくなったように思う。



## 参考：その他自由記載③

### <医療・介護連携プロジェクトについて>

- ・ 市外に救急搬送が多いため、市外にも広がると思う。

### <質問・要望>

- ・ とびうめネットを勧めているが、独居の方や認知症の方は、2ヶ月後に郵送されてもわからない方が多い。郵送先を居宅にして確実に本人に渡せる方がいいのではないかと（選択させてほしい）。退院の連絡が直前のこともある。退院の連絡が図られているかの調査も合わせてした方が良かったのではないかと？
- ・ とびうめ@きたきゅうに反対しているかかりつけ医の情報を教えてほしい。
- ・ 北九州市内で使用できる共通の連携シートや情報提供書があると便利だと思う。
- ・ 病院から普通に連絡が今までもあっているが、とびうめ@きたきゅうを見ての連絡かどうかわかると嬉しい。  
※ 1～2月の方が入退院は多い！！

### <その他>

- ・ 上記対象者（今回調査で入院となった利用者）をとびうめ登録しなかったのは、住宅型有料老人ホームに入所しており、急な搬送で身元が解らないといったようなことが想定されないと判断したためである。担当している利用者で自宅で生活している方はほとんど登録を行った。
- ・ 弊社は入院時連携加算は進んで取得させてもらっている。
- ・ 上記入院の方（今回調査で入院となった利用者）はサービスの利用はしていないが、介護保険の更新をさせていただいた方です。入退院のたびに本人宅訪問、情報提供等させていただいたが、実際、サービスが動くようになってからは、私が担当件数を超えており、別の居宅の方をお願い、情報提供させていただいた。（それが嫌だったわけではありません、サービス調整がうまくいき、良かったと思っているが、業務量は多い）

## 2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（対象：病院）

### 1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」の令和元年11月からの八幡地区でのモデル実施、令和2年6月からの全市展開並びに医療・介護連携ルールの運用開始から、一定期間がたち、とびうめ@きたきゅうの新規登録者数も約1.5万人を超えたため、「とびうめ@きたきゅうの活用状況」を把握するための調査を「とびうめ@きたきゅう」に参加している病院を対象に実施した。

### 2. 調査概要

- 「とびうめ@きたきゅう」参加病院に電子メールにて調査票を送付

### 3. 回答率

- 56.8%

(21/37病院)

内、	○救急病院	10病院
	○その他病院	11病院

## ○結果要点①

### 【導入部署】

地域連携室が最も多く76.2%（16/21病院）の病院で導入していた。

### 【院内で検索・閲覧している職種】

事務スタッフが最も多く73.5%。（25/34部署）

次いで看護師の55.9%。（19/34部署）

### 【各部署での活用状況】

院外の関係者に連絡する際に活用 （23.5%： 8/34部署）

緊急搬送時の治療の参考情報として活用 （20.6%： 7/34部署）

閲覧情報を院内の多職種で共有するために活用 （20.6%： 7/34部署）

使っていない （55.9%： 19/34部署）

#### ※使っていない理由

- ・ 閲覧情報を既に保有しているため、見る必要がない （36.8%： 7/19部署）
- ・ 院内での周知・理解が十分でないため、日常業務で閲覧できない（31.6%： 6/19部署）
- ・ 登録者数が少なく、検索しても登録していない方が多い （21.1%： 4/19部署）

## ○結果要点②

アクセスログからのヒット率（患者閲覧数/検索数）

		11月 (患者閲覧数 /検索数) 【検索病院数】	12月 (患者閲覧数 /検索数) 【検索病院数】	1月 (患者閲覧数 /検索数) 【検索病院数】	2月 (患者閲覧数 /検索数) 【検索病院数】
検索した市内の導入病院		6.9% (133/1,914) 【11病院】	4.4% (148/3,357) 【10病院】	6.8% (186/2,753) 【12病院】	8.5% (191/2,242) 【10病院】
内、救急病院		6.9% (126/1,815) 【7病院】	4.4% (143/3,242) 【8病院】	6.9% (183/2,634) 【9病院】	8.6% (180/2,101) 【8病院】
	内、市内東部 (門司区、小倉北区、 小倉南区)	3.4% (15/438) 【2病院】	1.8% (25/1,428) 【3病院】	4.6% (32/692) 【4病院】	5.2% (33/638) 【3病院】
	内、市内西部 (八幡東区、八幡西区、 戸畑区、若松区)	8.1% (111/1,377) 【5病院】	6.5% (118/1,814) 【5病院】	7.8% (151/1,942) 【5病院】	<u>10.0%</u> (147/1,463) 【5病院】

<参考> 要介護認定者で「とびうめ@きたきゅう」登録者の数（割合） **126 / 459件（27.4%）**

※R2.11.30~R2.12.25の入院者（救急入院、当日入院）のうち、「とびうめ@きたきゅう」登録者の数（ケアマネ事業所調べ）

## ○まとめ

- とびうめ@きたきゅうを使っていない部署が **55.9% (19/34部署)** あった。使っていない理由としては、
  - ・ **院内での周知・理解が十分でない**ため、日常業務で閲覧できない (31.6%)
  - ・ 登録者数が少なく、**検索しても登録していない**方が多い (21.1%) であった。
- アクセスログからのヒット率 (患者閲覧数/検索数) 2月時点を見ると、市内全体で8.5%、東部で5.2%、西部で10.0%のヒット率であり、これは**登録者数 (区別) の65歳以上の人口に占める登録者の割合よりも高いヒット率**となった。

<参考> 要介護認定者で「とびうめ@きたきゅう」登録者の数 (割合) **126 / 459件 (27.4%)**

※R2.11.30~R2.12.25の入院者 (救急入院、当日入院) のうち、「とびうめ@きたきゅう」登録者の数 (ケアマネ事業所調べ)

- 病院内でとびうめ@きたきゅうを定着させるためには、今のうちから**「登録者のより一層の増加」と「病院内での周知・理解を支援していく」**  
**必要がある。**

参考：病院内での設置状況

一つの部署	二つの部署	三つの部署
38.1% (8/21病院)	52.4% (11/21病院)	9.5% (2/21病院)

参考：病院内でとびうめ@きたきゅうを導入している部署

地域連携室	入院支援部署	救急外来	病棟	その他
76.2% (16/21病院)	9.5% (2/21病院)	33.3% (7/21病院)	9.5% (2/21病院)	33.3% (7/21病院)

参考：病院内でとびうめ@きたきゅうを検索・閲覧している職種

医師	看護師	ソーシャル ワーカー	事務スタッフ	薬剤師	その他
35.3% (12/34部署)	55.9% (19/34部署)	38.2% (13/34部署)	73.5% (25/34部署)	0.0% (0/34部署)	0.0% (0/34部署)

## 参考：病院内でのとびうめ@きたきゅうの活用状況①

1 : 緊急搬送時 の治療の 参考情報 として活用	2 : 閲覧情報を 院内の多職種 (Dr、Ns、SW等) で共有	3 : 院外の関係者 (ケアマネ、家族等) に連絡する際に 活用	4 : その他	5 : 使っていない
20.6% (7/34部署)	20.6% (7/34部署)	23.5% (8/34部署)	14.7% (5/34部署)	55.9% (19/34部署)



1 : 閲覧できる パソコンが わからない	2 : パソコンの 起動から情報 を見るまでに 時間がかかる	3 : 閲覧情報を 既に保有して いるため、 見る必要が ない	4 : 登録者数が 少なく、 検索しても 登録していな い方が多い	5 : 院内での周知 ・理解が十分 でないため、 日常業務で 閲覧できない	6 : その他
0.0% (0/19部署)	10.5% (2/19部署)	36.8% (7/19部署)	21.1% (4/19部署)	31.6% (6/19部署)	52.6% (10/19部署)

## 参考：病院内でのとびうめ@きたきゅうの活用状況②

### 「とびうめ@きたきゅう」の活用方法の「その他回答」

- ・ 入院時要約のアップ（救急病院）
- ・ 当院入院時の患者情報の確認（その他の病院）
- ・ 他医療機関からの紹介・転院時の確認（その他の病院）
- ・ 本人から情報提供がないから（救急病院）
- ・ 院内の他部署から問い合わせがあった時（その他の病院）

### 「とびうめ@きたきゅう」を使っていない理由の「その他回答」

- ・ 閲覧専用パソコンの操作マニュアル等を整備中（その他の病院）
- ・ 当院は療養型病院であることから急性期病院からの転院が多く、情報提供書等で確認できる。在宅でも、当院外来通院中の方や居宅デイケア利用者なので情報の入手ができています。（その他の病院）
- ・ 必要とする時がない。（その他の病院）
- ・ 必要な情報がなかった。（その他の病院）
- ・ 環境が整っていない。今後整える予定。（救急病院）
- ・ 院内に周知ができていない（その他の病院）
- ・ 連携室（最も利用する部署）で情報管理をしているので不明なことは連携室を通して確認するので他部署が直接調べることがない。（その他の病院）
- ・ 12/10に8月分の行政提供情報がアップ。少し遅い。（救急病院）
- ・ がん相談支援センターでは利用の機会が少なかつたため、患者支援センターに異動予定。（その他の病院）
- ・ 院内の環境が整っていない。（その他の病院）
- ・ 連携室経由で情報共有しているため。（その他の病院）



## 参考：院内活用の体制を整えるために困っている事

- 登録該当者数が少なく、運用再開して約一ヶ月使用しているが、正直役立ったことは一度もない。  
そのため救急部門でも“救急搬入の都度検索”とはいかず、“困ったときの奥の手”としての使用を促しているが、現時点で活用事例は無い。（救急病院）
- 稀に該当があり、ケアマネへ連絡すると、入院連絡だけのはずが事細やかに注文されるケースもあり  
困惑した。（救急病院）
- 現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、医療提供体制と病院運営の維持確保が最優先であるため。（その他の病院）
- 新型コロナ対応や地域連携室準備中にて時間がない状況。（その他の病院）
- 慢性期医療機関での活用方法が限定的なので各部署へ重要性の周知がうまくいかない。  
（その他の病院）
- 緊急搬送時情報として活用したいが、救急部に設置しておらず、職員周知も低い為、活用頻度が低い。  
（救急病院）

## 参考：自由意見欄

- 登録該当者が少ないため、該当すればケアマネに連絡する…という目的で使用している。  
(救急病院)
- 急性期病院ではないため、事前に患者情報が無い事例がほぼ無い。なかなか活用にいたりません。  
(その他の病院)
- 救急搬送患者が事前に登録者とわかり、とびうめ情報の印刷依頼がある。 診療担当上位医師が指導も含め情報を共有し診察した。 (救急病院)
- かかりつけ医療機関が多い方の内服状況確認ができた。登録者が増えてはいるが入院時に検索してもヒットしないことが多いので登録案内を推進するよう努力している。 (その他の病院)
- 病病連携や各事業所、行政機関へ直接問い合わせることも多く、最終手段としての活用にとどまっている。ケアマネ事業所との連携が取れているため、参考情報を必要とする困難事例が少ない。  
(救急病院)
- 現在、病院移転のため、あまり活用できていない。新病院では環境を整えたいと思っている。  
(その他の病院)

## 北九州医療・介護連携プロジェクトとして 今後、力を入れていく点

- ・「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）
  - ・「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（結果）
- を踏まえて、今後、下記の点により一層力を入れていく。

### **①医療・介護連携ルールを守れる体制づくりを病院・ケアマネ事業所に働きかける**

○入院3日以内に病院がケアマネ事業所に連絡した割合の向上  
(50.7% R2.12時点)

○病院からの連絡を受け、3日以内にケアマネ事業所が情報提供した割合の向上  
(80.0% R2.12時点)

### **②とびうめ@きたきゅうの加入促進と、病院内の活用体制を並行してつくっていく**

○認知度を上げて、加入しやすい環境づくり、一部の人たちだけでなく広く窓口をつくる

○各病院で活用が進まない状況を個別に把握し、院内説明を行うなど個別病院の状況に測した活用体制をつくる



## 議題3. 「とびうめ@きたきゅう」の普及促進にかかる土台づくり①

### **(1) 広報の強化**

- ① 「高齢者のためのサービスガイド」に紹介ページを作成予定
  - ② 「国保のしおり」に紹介ページを作成予定
  - ③ 「みんなで支え合う介護保険」に紹介ページを作成予定
  - ④ 「介護保険のしおり」に紹介ページを作成予定
- 合わせて、令和2年度と同様の周知を行う

※ 「後期高齢者医療制度のしおり」は福岡県が作成。

### **(2) 身近な受付先の公表（市HP）**

- 行政機関や市民センターでの受付
- 病院や診療所での受付（R3.3公表予定）

### **(3) 要介護認定・要支援認定等申請書（以下、「申請書」）に同意項目を追記**

- 令和3年7～9月作成分に追記予定

**(4) 北九州医療・介護連携プロジェクトのリーフレットの作成**

**(R3. 3作成予定)**

- 医療・介護専門職への周知用として作成
  - 北九州医療・介護連携プロジェクト会議作業部会  
北九州医療・介護連携プロジェクト会議 を経て、作成
- ※作成にあたり、各在宅医療・介護連携支援センターからも意見を聞きます。

**(5) 区役所内でのタブレット端末の手配**

- 各区2台の計14台を手配予定

## 全市展開に伴う周知について

令和  
2年

- 5月 市内のとびうめネット導入医療機関に  
「とびうめ@きたきゅう」閲覧開始のお知らせ
- 6月 ○市内のとびうめネット導入医療機関で閲覧開始  
○市内すべての病院、診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、  
介護老人保健施設、特別養護老人ホームに患者・利用者への登録の協力  
のお願い  
○市民説明用動画「T@K NEWS」をYouTubeで公開  
○6/15日号市政だよりに記事掲載
- 7月 自治会、民生児童委員、老人クラブ、社会福祉協議会への周知
- 8、9月 病院個別訪問
- 9月 市内全市民センター（136館）へ登録申出書の設置・受取を依頼
- 10月 とびうめ@きたきゅうモデル実施結果報告会
- 11月 ○とびうめ@きたきゅうに「医療機関からの追記機能」を追加  
○各区保護課に登録申出書取得の協力を依頼  
○医療・介護連携ルールの活用状況調査の実施

令和  
3年

- 1月 消防団への登録の協力をお願い
- **2月 生活保護者の医療情報提供開始**
- **3月 とびうめ@きたきゅう登録申出書受け付け先の公表**





## 議題 4. 登録申出書受け付け先の市HPでの公表

### 1. 目的

「とびうめ@きたきゅう」の開始から1年近くが経過し、登録を希望する市民からの問い合わせも増加している。

そのため、市民が登録を希望した際に登録申出書の受付を行う機関・事業所をリスト化し、より具体的で身近な受付先を案内する（併せて、北九州市HPでも公表）ことで、登録における市民サービスの向上を図る。

### 2. 公表をお願いしていく順番

1 番目：病院、診療所、行政機関

※行政機関 各区地域包括支援センター(24)、保健福祉課介護保険担当(7)、  
市民センター(136)

2 番目：ケアマネ事業所

3 番目：歯科診療所、薬局、その他必要に応じて実施

### 3. 経過

- ① 市内の病院・診療所に協力依頼を発送（令和2年12月11日）
- ② 本日までの回答状況

**病 院 17病院**

**診療所 90診療所**

→病院・診療所の中には、これまで登録申出書を受け取った実績がない機関もある。  
今後、実績がない機関については、事業内容の説明などを行う予定。

- ③ 令和3年3月中に市HPで公表開始

「とびうめ@きたきゅう」登録申出書の受け付け先

[シェア ツイート](#)

記入した後の「とびうめ@きたきゅう」の登録申出書を提出できる（受け取ってくれる）協力機関です。

「とびうめ@きたきゅう」に関する相談・問い合わせは、北九州市保健福祉局地域医療課（093-582-2678）または、下記の在宅医療・介護連携支援センターにご連絡ください。

行政関係

- ・各区役所（保健福祉課内介護保険担当、地域包括支援センター）
- ・各出張所（地域包括支援センター）
- ・市民センター：136館 ※送付用の封筒がもらえます。

在宅医療・介護連携支援センター

名称	場所	住所	電話番号
門司在宅医療・介護連携支援センター	門司区医師会内	門司区小森江3丁目12-11	093-371-3313
小倉在宅医療・介護連携支援センター	小倉医師会内	小倉南区春ヶ丘10-14	093-932-7141
若松在宅医療・介護連携支援センター	若松区医師会内	若松区藤ノ木2丁目1-29	093-752-1117
八幡在宅医療・介護連携支援センター	八幡医師会内	八幡東区平野2丁目1-1	093-663-7500
戸畑在宅医療・介護連携支援センター	戸畑医師会横	戸畑区正津2-4	093-871-1780

## 医療機関

(予定)

## 門司区

## 診療所

番号	医療機関名	住所		電話番号
1	伊東医院	門司区	白野江2丁目12-39	093-341-2626
2	池田医院	門司区	東門司2丁目9-13	093-321-2659
3	鶴木医院	門司区	社ノ木1丁目15-7	093-371-2015
4	よしだクリニック	門司区	柳町2丁目3-14	093-372-1155
5	きしもとクリニック	門司区	大字吉志407	093-483-1600
6	新田医院	門司区	柳町2丁目7-11	093-371-5111
7	田中あきら内科クリニック	門司区	本町2-10	093-321-3211
8	辻医院	門司区	永黒2丁目9-18	093-381-4619
9	安藤内科・循環器科医院	門司区	寺内1丁目1-3	093-372-5420

## 小倉北区

## 病院

番号	病院名	部署名	住所		電話番号
1	健和会大手町病院	医療福祉連携部	小倉北区	大手町15-1	093-592-5530

## 議題5. 区保護課における「とびうめ@きたきゅう」へのアクセスについて

「とびうめ@きたきゅう」への区保護課のアクセスについて、北九州医療・介護連携プロジェクト会議の了解をいただきたい。

### 1. 概要

「とびうめ@きたきゅう」に生活保護受給者の利用情報が提供されるにあたり、区保護課においても、「とびうめ@きたきゅう」を閲覧することにより、緊急時における医療機関との速やかな情報共有などの効果が期待できる。

### 2. 効果

生活保護受給者の緊急対応・入退院などに際し、担当ケースワーカーが詳細な情報を迅速に把握することにより、医療・介護関係者との対応がスムーズに行え、生活保護受給者にとって適切な医療・介護サービスを迅速にかつ切れ目なく提供でき、命を救うことにつながる。

### 3. 方法

区保護課に勤務する市職員のみが、上記の際にタブレット端末を用いて情報検索を行う。

### 4. その他

現状、区保護課において、生活保護受給者の医療・介護・健診の情報を閲覧することができており、また生活保護受給者が罹っている医療機関と「要否意見書や病状調査」を通じて情報の共有を図っている。

## 議題6. 北九州医療・介護連携プロジェクトのリーフレットについて



○誰に向けたパンフレットか？

→市内の医療・介護関係者向け

○作成する目的は？

→ 北九州医療・介護連携プロジェクト（とびうめ@きたきゅう、病院窓口ガイド、医療・介護連携ルール）の策定の経緯、効果、協力する際のそれぞれの役割をわかりやすく説明したパンフレットを作成することにより、より多くの医療・介護関係者に協力をいただく。

## 北九州医療・介護連携プロジェクトについて

更新日：2020年11月27日

シェア  ツイート

北九州医療・介護連携プロジェクト（とびうめ@きたきゅう、病院窓口ガイド、医療・介護連携ルール）について紹介します。

### 概要

北九州市では、北九州医療・介護連携プロジェクト会議において合意・策定した下記3つの取組を医療・介護関係者に使い・守っていただくことにより、「切れ目のない医療・介護の提供のため、医療・介護等専門職が的確かつ効率的に連携できる環境」を整備することを目指しています。

- (1) **とびうめ@きたきゅう**：患者の基本的な医療・介護情報を医療機関で共有
- (2) **病院窓口ガイド**：病院と連携する際の窓口や連絡方法を病院毎にまとめ公表
- (3) **医療・介護連携ルール**：上記（1）、（2）を活用し、入院・転院の連絡や情報共有をスムーズにする



北九州医療・介護連携プロジェクトリーフレット  
「まもる・つながる・安心」